

# あかるく かしこく たくましく

令和5年10月18日 No. 30 文責：校長 佐野紳二

## 秋らしくなってきました

運動会が終わって10月に入った途端、それまで続いていた厳しい残暑がまるで嘘だったかのよう気温が下がり、すっかり秋らしくなってきました。気候がとてもさわやかで過ごしやすく、食べ物もおいしいこの季節が、私はとても好きなのですが、みなさんはいかがでしょう？

以前は春が好きだったのですが、花粉症になって以来、春は苦手な季節になってしまいました。

更にその前、子どもの頃から20代くらいまでは夏が好きだった記憶があります。

今は猛暑が厳しくなってきたこともあり、自分の体形の変化とともに夏はすっかり苦手になってしまいました…。

そんな個人的なことはさておき、この季節になると「〇〇の秋」という言葉をよく聞くようになります。他の季節には「〇〇の春（夏・冬）」という言い方はあまりないので、秋は特別な季節なのでしょう。

インターネットでは、「秋は気候がちょうど良いから」なんていう説明を見かけましたが、実際のところどうなのでしょう？

世の中にはいろいろな秋があるようですが、みなさんは「〇〇の秋」というと「何の秋」を思い浮かべるでしょうか。世間一般の人がどう思っているのか、ちょっと気になったのでいろいろなサイトで「〇〇の秋」のランキングを調べてみました。結果は以下の通りでした。

	四季おりおり快適生活	みんなのランキング	macaroni	オリコン	Nifty
1	実りの秋	紅葉の秋	食欲の秋	食欲の秋	食欲の秋
2	芸術の秋	食欲の秋	紅葉の秋	読書の秋	紅葉の秋
3	食欲の秋	スポーツの秋	読書の秋	スポーツの秋	実りの秋
4	スポーツの秋	読書の秋	実りの秋	芸術の秋	読書の秋
5	読書の秋	睡眠の秋	芸術の秋	紅葉の秋	行楽の秋（同率）
6	収穫の秋	芸術の秋	運動の秋	運動の秋	スポーツの秋
7	行楽の秋	音楽の秋	睡眠の秋	味覚の秋	芸術の秋
8	紅葉の秋	旅行の秋	旅行の秋	音楽の秋（同率）	睡眠の秋
9	音楽の秋	実りの秋	行楽の秋	旅行・実り・食べ物	ファッションの秋
10	睡眠の秋	行楽の秋	ファッションの秋	の秋（同率）	勉強の秋

いかがでしょうか？一番上は調べたサイト名で、一番左の「四季おりおり快適生活」は2017年9月24日から1年の間に新聞の紙面に登場した回数が多い順のランキング、その他は各会社が独自に行ったアンケート調査の結果だそうです。アンケートでは「食欲の秋」の人气が圧倒的ですが、新聞で使われた回数は「実りの秋」が2位以下を大きく引き離していました。他はどれを見てもほぼ同じような結果になっていますが、アンケートを取った年代によって答えには結構なばらつきがあったそうです。

さて、圧倒的人気の「食欲の秋」ですが、では、数ある秋の味覚の中で、真っ先に思いつくものと言えませんか？これもさまざまなアンケートがあったので、結果を紹介したいと思います。

### 秋の味覚といえば…

- 1 さんま 2 栗 3 松茸 4 柿 5 梨



アンケートによって多少のばらつきはありましたが、どこでも人気なのは、上の5つでした。

私は秋に松茸をいただく機会はほとんどないのですが…みなさんはいかがですか？

## 寒露（かんろ）と二十四節気

さらに季節ネタが続きます。気になったことは調べたくなる性分なので、もう少しお付き合いください。

10月のカレンダーをよく見ると（カレンダーにもよりますが）8日のところに「寒露」、24日のところには「霜降」と書いてあります。今日は18日なのでちょうどこの真ん中あたりになりますが、日本では季節を表す言葉として昔から「二十四節気」というものが使われていて、その二十四節気に従って言うと、今頃の時期を寒露と言うそうです。「寒露」とは、草木に冷たい露が降りる時期という意味で、この時期になると朝晩はぐっと冷え込むようになります。

では、その「二十四節気」とは一体何なのか、気になったので調べてみました。



## 二十四節季とは？

二十四節気（にじゅうしせつき）は、今でも立春、春分、夏至、冬至など、季節を表す言葉として用いられています。1年を春夏秋冬の4つの季節に分け、さらにそれぞれを6つに分けたもので、「節気（せつき）」と「中気（ちゅうき）」が交互にあります。

### 二十四節季

季節	二十四節季	新暦の日付	季節	二十四節季	新暦の日付
春	立春（りっしゅん）	2月 4日頃	秋	立秋（りっしゅう）	8月 8日頃
	雨水（うすい）	2月 19日頃		処暑（しょしょ）	8月 23日頃
	啓蟄（けいちつ）	3月 5日頃		白露（はくろ）	9月 8日頃
	春分（しゅんぶん）	3月 21日頃		秋分（しゅうぶん）	9月 23日頃
	清明（せいめい）	4月 5日頃		寒露（かんろ）	10月 8日頃
	穀雨（こくう）	4月 20日頃		霜降（そうこう）	10月 24日頃
夏	立夏（りっか）	5月 5日頃	冬	立冬（りっとう）	11月 7日頃
	小満（しょうまん）	5月 21日頃		小雪（しょうせつ）	11月 22日頃
	芒種（ぼうしゅ）	6月 6日頃		大雪（たいせつ）	12月 7日頃
	夏至（げし）	6月 21日頃		冬至（とうじ）	12月 21日頃
	小暑（しょうしょ）	7月 7日頃		小寒（しょうかん）	1月 5日頃
	大暑（たいしょ）	7月 23日頃		大寒（だいかん）	1月 21日頃

調べてみて、知っている言い方と知らない言い方が大体、半々くらいかなあ…なんて思いました。また自身自身の季節の感覚とは1か月くらいのずれがあるようにも感じました。昔の人は季節の移り変わりに敏感だったのかな？二十四節季は旧暦を使っていた頃の言い方なので、それも関係あるかも知れません。

日本以外の国には、おそらくこうした季節の言い方はほとんどないと思われます。これらの言葉は我々の日常生活の中からだんだん失われているような気もしますが、季節の移り変わりを細かく言葉で表すのは、日本の素晴らしい文化のひとつでもあるように思います。（日本には微妙な色彩の表現もたくさんあります。R2年度の校長通信 No.47 で、前校長先生が詳しく語っていますので、ぜひ一度ご覧ください）

言葉は時代とともに変わっていくものなので、こうした言い方も徐々になくなっていってしまうのかも知れませんが、それは何だかとても「もったいないこと」のような気がします。時にはこんな季節の言い方も、気にしてみるといいなあ…なんて、調べながら思いました。

